

柳瀬正夢全集

全4卷+別巻1

Yanase Masamu

柳瀬正夢全集刊行委員会 編

柳瀬正夢（一九〇〇—一九四五年）の全軌跡。

激動の時代と社会に拮抗した漫画家
大正アヴァンギャルド運動、
プロレタリア芸術運動のなかで、

MaVoをはじめとする

現代の画家一般は全て
漫画家でなくてはならない

来る2015年
没後70年にむけて
第1巻 刊行開始！



三人社

回顧展開催

北九州市立美術館 本館

2013年12月14日（土）～2014年2月2日（日）

神奈川県立近代美術館 葉山

2014年2月11日（火・祝）～3月23日（日）

愛媛県美術館

2014年4月5日（土）～5月18日（日）

アサヒグラフ
インタナショナル
解放
科学主義工業
カマラード
貨物列車
九州文学
協和（満鉄会）
キング
鎮
鶴頭
ケジラミ
講談俱楽部
交通労働
号外
コクミン二年生
コドモノクニ
子供之友
時局新聞
詩人（文学案内社）
社会評論
週刊朝日
週刊毎日
新愛知
新天地
新風土
新聞及新聞記者
政界往来
職旗
太陽
種蒔く人
近きより
中央公論
帝國大学新聞
鐵塔
東京新聞
東京パック
土上
土地と自由
日本及日本人
日本電気新報
日本評論
野火
ピカ一
美術雑誌AS

内容見本



〔無題〕『文芸戦線』1巻5号、1924.10.1

原本を約60%縮小

3. 漫画

自叙伝

（白板伝）

彼は今、用意の漫画をしつくり書き終へた処なのである。昭和二年一月二日。此の日までを彼の発展過程における第一段階と彼は称してゐる。



戸籍面の上ではこんなになつてゐる。
本籍、松山市小僧人町三丁目十七番地
出生、明治三十三年一月十二日。

私は無為にして既に二十八歳。自分乍ら呆れ返らざるを得ない訳である。

く彼はこれを最初にして最後のものとするであらう。
来順番好機不可逸。この機会にでも彼の一生活過程を整理し、同時に即刻彼のこの過去帳を埋葬せねばならない。ばやけた彼の記憶よ、安らかに成仏しろ！

彼の生年？ 大正十二年。

月日は？ 九月一日。

全く眞面目で言つてゐるのである。彼はぐうたらであ

転々と流浪、種々な職業を渡り歩いた。
母方。愛媛県波止浜町近在の代々の庄屋。落武者のな
れのはてと聞く。が庄屋のなれのはてはほれにも老
に晒された。一家を支へるた
つし。

から承けてゐる。両親は松山
た時には、母は髪結をしてゐ

刊行の言葉

本書は、M·A·V·Oをはじめとする大正アヴァンギャルド運動、プロレタリア芸術運動のなかで、激動の時代と社会に抗争した漫画家・柳瀬正夢（やなせまさむ、一九〇〇～一九四五年）の全集である。

美術史において長らく看過されてきたグラフィック・アートに焦点を当て、タブローを除く柳瀬の著作——漫画・挿絵・装幀・ポスター・詩・俳句など——を網羅し、四つの時代に分けて収録する。名高いプロレタリア漫画をはじめ、初期の議会漫画・諷刺画・『読売新聞』『アサヒグラフ』におけるナンセンス漫画、「パン太の冒險」などのコミック漫画、多くのイメージを生成した装幀、晩年の童画や写真構成にいたるまで、大衆・読者を意識し、社会の矛盾を追及した作品は、色あせることなく、いまの我々をも魅了してやまない。

生前には「無産階級の画家 ゲオルゲ・グロツス」（鉄塔書院 一九二九年）、『柳瀬正夢画集』（叢文閣 一九三〇年）が出版されているが、それは彼の思想や画業の一端を示すものであり、その全貌を十分に知ることはできなかつた。稀観資料もくまなく調査した本全集は、柳瀬の創作活動の集成であると同時に、戦前の思想、政治、社会、文化、風俗の歴史そのものともいえる。

二〇一五年の没後七〇年をひかえ、縁のある三都市で再調査がなされ、今冬より北九州・神奈川・愛媛でその全貌を回顧する展覧会が開催されるなど、いま柳瀬正夢再評価の勢はとどまるところを知らない。

近代美術 漫画、日本近代文学の研究者必携の書である。

柳瀬蓼科といふ俳人の死

井出孫六（作家）

柳瀬正夢は一九世紀の最後の年一九〇〇年正月六日、子規の故郷松山に生まれた。正六と名づけられたのを嫌つて後に正夢と改めたが、彼の歳は二〇世紀と同じ刻みだった。一九年わずか一五歳で第二回院展に「河と降る光と」で入選するという早熟ぶりで世間を驚かせた。院展でこの絵を観た

小宮豊隆は

——茲處には確かにした物の攬み方がある。鮮やかな色の使ひ方がある。……此作者は、色彩を分析する感覺と色彩を綜合する感覺とを、可成多重に賦与されてゐる人のやうに見える。——〔新小説〕一九一五年一月号)

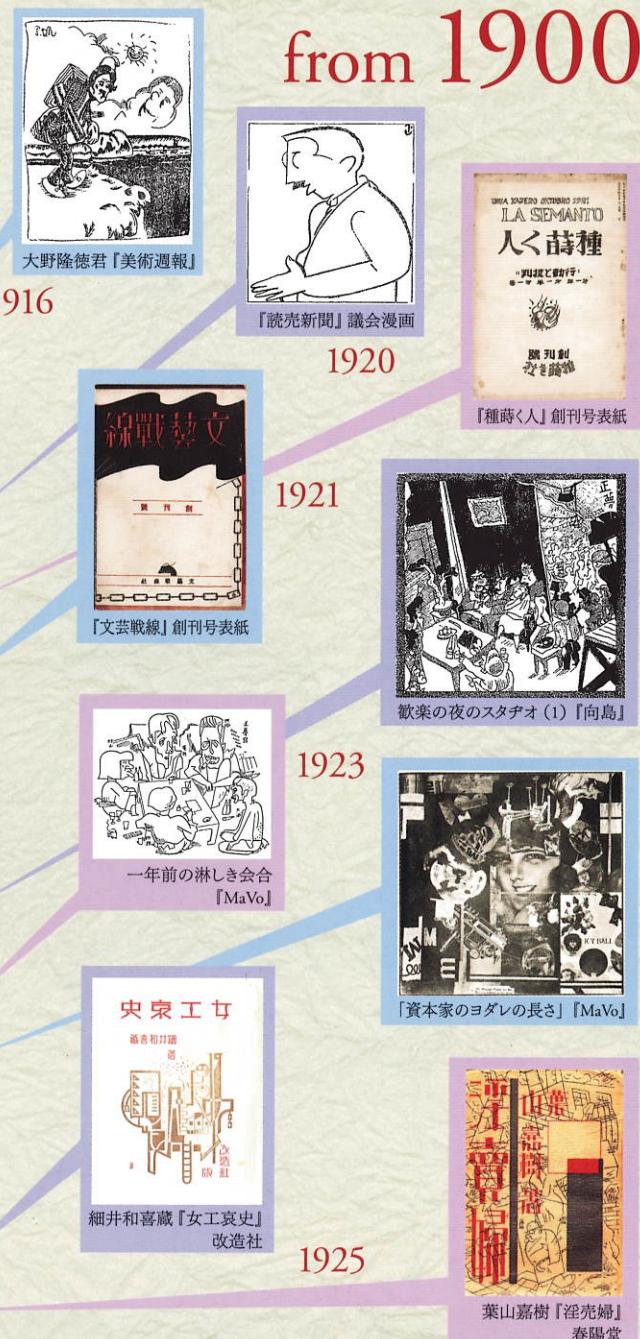
と、天才少年の誕生を喜ぶ批評を発表し、柳瀬正夢はひそかに小宮を尊敬し、年賀状を欠かさなかつた。だが、必ずしも、小宮の期待通りの画業を続けたわけではなく、生活の糧のため新聞に似顔絵を描いて有島武郎を感じさせたかと思えば読売の漫畫部に入つたり、「種蒔く人」の同人になつて創刊号の装幀で評判をとり、装幀家としてプロレタリア作家たちから感謝されたりもしたあげく、無産運動に突入して逮捕され、多喜二にも似た拷問を受ける。妻臨終を憂えた周囲の陳情で仮保釈となつた柳瀬正夢の髪が老人のように白くなつていたのに、迎えた友人たちは呆然としたと語り伝えられてゐる。

妻亡き後、二人の娘を養うため山の絵を描くべく蓼科に岡かけるようになつていった柳瀬は、蓼科の俳号で句をひねるようになつていた。七九四句の作品が、小宮豊隆の手元に送られていつたのは一九四三年、柳瀬四三歳の冬のこと。

眞底より凍つてつく峠黒き富士

という冒頭の作が、小宮の心を深くゆさぶつたことは事実だが、小宮が批評を寄せた蓼科の作品集は、発刊されぬまま柳瀬の手箱に残された。柳瀬正夢は一九四五年五月二五日、新宿駅で蓼科方面行き夜行列車を待つなか、B29の爆撃によつて即死、享年四五歳。朝日新聞は柳瀬正夢という逸材の死を伝えた。

1900	1	〔明治33〕1月12日。愛媛県松山市に、生まれる。本名・正六。
1911		福岡県門司市新川町（現・北九州市門司区）に移転。
1914	5	画家を目指し上京。村山槐多らと交流を深める。
1915	8	壳文社社員・松本文雄に出会い、社会主義思想にふれるようになる。
	10	日本美術院第2回展覧会に《河と降る光と》が入選。小宮豊隆の賞讃を受ける。
1916	5	柳瀬まさむ個展（松山、小倉）開催。
	8	小倉で分離派洋画協会結成。
1917	2	関西美術協会研究所・同小倉研究所主催の美術講演会において、「黒田清輝の裸体画に対する警察の干渉」に言及し、はじめて検束。
1918	9	上京。焼画の内職、珈琲屋の小僧などをして生活。 *自画自装の詩画集『邯鄲夢枕』制作。
1919	12	長谷川如是閑の知遇を得る。翌年には如是閑の世話で『我等』の校正係、のちに表紙、挿絵やカットなどを手掛ける。如是閑とは生涯に渡って親交。
1920		*読売新聞社に入社。翌年より、『読売新聞』紙上に議会風景、政治家の似顔絵を多数発表。
	9	『日本及日本人』に「時事漫画五十題」を発表。
1921	10	第2次『種蒔く人』（東京版）創刊。同人となり、表紙絵・カットや漫画などを寄せる。
		第2回未来派美術協会展に穴明共三名義で出品。22・23年の展覧会にも出品。
1922	9	『日本及日本人』に「漫画新東京五十題」を発表。
	2	長谷川如是閑『奇妙な精神病者の話』『お猿の番人になるまで』（ともに我等社）の装幀を手掛ける。これが柳瀬にとって最初の装幀本となる。
	3	日本漫画会創立、客員となる。
	4	先駆座第一回試演で舞台装置を担当。以降も舞台装置やポスターを手掛ける。
1923	5	日活宣伝誌『向島』編集顧問として入社。
	6	『詩人』に「詩人洋画展を観る」を寄稿、「写象、漫象、没象」という独自の絵画三様式理論を展開。
	9	関東大震災の直後、憲兵隊に逮捕、早稲田署に留置される。翌月、東京市内で震災跡をスケッチ。
	6	『文藝戦線』同人となり、漫画、装幀、カットなどを手掛ける。このころからグロッス風の漫画を多数発表するようになる。
1924	7	雑誌『マヴォ』創刊。
	8	読売新聞社を解雇される。
	10	三科造形美術協会を結成、発起人となる。
	2	『漫画』（北斗荘）創刊、下川四天、麻生豊らとともに同人となる。
1925	5	30日、劇場の三科において、漫劇「+ - + - × ÷ = 休日（香ひと動作と光を主とするパントマイム）」を作・演出。



待望の『柳瀬正夢全集』である

浦西和彦（関西大学名誉教授）



『種蒔く人』1923年6月号



『国際労働會議の内幕』1927年

私が柳瀬正夢を意識したのは、三十年ほど前に葉山嘉樹の『淫売婦』『海に生くる人々』出版記念会の一枚の写真であった。写真の前面に葉山嘉樹が柳瀬正夢の頭を抱えて、柳瀬正夢がにこに笑みを浮かべ、目線をカメラに向いている。その穏やかな表情の柳瀬正夢が、『種蒔く人』の表紙絵や徳永直の『太陽のない街』装幀や雑誌『戦旗』の表紙絵を描いたかと驚いた。その時から私は『柳瀬正夢全集』の刊行を待ち焦がれていたのである。なぜなら、柳瀬正夢が狭い画壇に埋没してしまわないで、あの激動の時代や社会に全身で立ち向かっていったからである。柳瀬正夢が大正末年から昭和にかけての前衛芸術運動に果たした歴史的役割は極めて大きい。柳瀬正夢の美術創作活動はその困難な時代を強烈に映し出している。『柳瀬正夢全集』の刊行によって、我々はその時代と社会を改めて再認識することが出来るであろう。

柳瀬正夢は從来の美術画壇の枠を大きくはみだした存在である。十五歳で油絵「河と降る光と」が院展に入選した。柳瀬正夢は画壇での師匠を持たないで、独自のスタイルを構築していく。油絵を始め、「無産者新聞」の政治漫画や「読売新聞」の議会漫画、書籍の装幀、その特徴を鋭くつかんで描く似顔絵、舞台装置など、その活動分野は多種多様であり、多彩である。そして、それがダイナミックな社会的要素を追求している。

	6	新聞『日本』に漫画などを寄せはじめるが、同年9月に解雇。
1925	9	曾我廻家五九郎主演映画「ノンキナトウサン 花見の巻」で小生夢坊とともに舞台装置を担当。
	11	細井和喜蔵『工場』(改造社)の装幀にサインとして「いろは」とともに「ねじ釘」を使用。
	12	『文藝戰線』に「馬橋雄信」を寄稿。「今の僕には漫画という形式が一等恰好だ」と、漫画のもつ可能性を主張。
		日本プロレタリア文芸連盟(プロ連)創立。美術部(RA)に所属。
1926	2	〔大正15／昭和1〕共同印刷争議応援のため、街頭似顔絵市場、移動演劇トランク劇場を開催。
	3	『無産者新聞』に挿絵や漫画を寄せはじめる。
	8	日本漫画家連盟創立、発起人となる。翌年の展覧会に出品。
	11	前衛座結成。同人となり、舞台装置などを担当。
		日本プロレタリア芸術連盟(プロ芸)創立、中央委員となる。
	*	東京毎夕新聞社漫画部客員となる。
1927	1	性文学社・野獣群主催の新興芸術祭で舞台装置を担当。
	2	『ユウモア』に「自叙伝」を寄稿。
	4	『新天地』(大連)の装幀、カットを担当はじめる。
	5	『美之国』に「無産階級の画家 ゲオルゲ・グロッス」を寄稿。
	*	『無産者新聞』のポスターを制作。
1928	1	『アサヒグラフ』にリレー漫画や合作漫画を発表はじめる(~30年)。
	3	全日本無産者芸術連盟(ナップ)結成に参加(12月、協議会に再編成)。
	6	治安維持法反対連盟の実行委員となる。
		北九州無産者新聞支局訪問中に逮捕、勾留される。
	10	ルボルタージュ「狂犬に噛まれる」(『戦旗』10~11月)で、関東大震災後の憲兵や北九州での特高など強権による弾圧を告発。
		全日本無産者芸術連盟主催の柳瀬正夢作品個人展覧会開催。
	11	『無産者グラフ』(無産者新聞社)創刊、編集長となる。翌年1月に第2輯発行。
1929	2	無産者新聞の筆禍事件に連座し、芝愛宕署に拘禁。
	4	日本プロレタリア美術家同盟(PP)の創立に参加。
	6	柳瀬正夢作品頒布会(叢文閣)開催。
	8	読売新聞社満蒙視察団に参加。
	11	『無産階級の画家 ゲオルゲ・グロッス』(鉄塔書院)出版。編集・序文を手掛ける。
	*	「ねじ釘」のサインをおもに使用するようになる。
1930	2	『柳瀬正夢画集』(叢文閣)出版。
	6	長谷川如是閑『歴史を捻ぢる』(鉄塔書院)に漫画挿絵を寄せる。
	8	読売新聞漫画部創設にあたり、再入社。
1931	3	『PPNews』No.18に「同志柳瀬正夢に関する常任中央執行委員会の決定」が発表され、商業ジャーナリズムにおける柳瀬の活動が批判される。



彼等が生活は緑の夏
かれの生活には赤夏
あるのみ解放



弾圧に逆襲せよ
『無産者新聞』



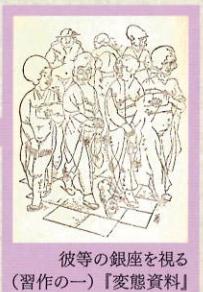
『無産者グラフ』第2輯



1928

1929

1930



彼等の銀座を視る
(習作の一)『変態資料』



銀座はおでん鍋だ『芸文市場』



徳永直「太陽のない街」
戦旗社



金持ち教育『読売サンダー漫画』

柳瀬正夢研究の 新たな端緒となるだろう

及部克人

(東京工科大学デザイン学部教授・
武藏野美術大学名誉教授)

「一九二〇年代・日本展」の担当者、東京都美術館萬木康博学芸員は、およそ八年の時間をかけて大正、昭和初期の横断的な領域にわたる芸術運動の流れを追い、作家や遺族を訪ね、多くの作品を探し、推敲を重ねた。この作業のなかで、柳瀬正夢の遺族である柳瀬信明・利子夫妻が長期間守ってきた作品及び資料が、大正、昭和の尖端的な活動を俯瞰する核となる資料として極めて優れたものであるかを知り、この企画に大きな確信をもつことが出来たと語っている。「一九二〇年代・日本展」終了後、柳瀬夫妻から柳瀬正夢作品及び資料の寄託先として、武藏野美術大学に打診があった。当時の美術資料館長桑原住雄教授は、柳瀬正夢の仕事に強い関心を持ち、学内の各分野のエキスパートを集めた柳瀬正夢整理委員会を組織して作品と資料の整理にあたることとした。大英断だった。

一九九〇年には、本学美術資料図書館において、「寄託記念・没後四十五年＝ねじ釘の画家 柳瀬正夢展」が、一九九五年には「柳瀬正夢＝疾走するグラフィズム展」が開催された。その後の一九九六年、絵画、挿絵、ポスター等、一〇〇点にのぼる作品が武藏野美術大学に寄贈された。二〇〇八年には、「権の画家＝柳瀬正夢展」が開催され、筆者はその監修をおこなった。

かつて小林勇は語っている。「(柳瀬正夢)」如何なる作品ものがさす年代順に編集すれば、特色ある、壮大な激動期の日本の歴史書が出来るであろう。この仕事は、一人や二人の個人の力ではむずかしいと思う」。小林は、「五年十年……必要」といつたが、これからまだ五年十年はかかりそうだ。

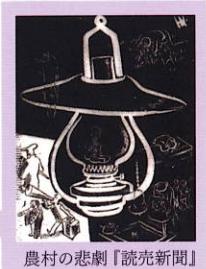
柳瀬正夢全集刊行委員会による三人社の『柳瀬正夢全集』の刊行によつて、柳瀬正夢の足跡をめぐる新たな研究がスタートするに違ひないと確信いたします。

	7	朝鮮、大連、奉天を訪問。
1931	11	日本プロレタリア文化連盟(コップ)創立、参加する。 *日本共産党入党。
1932	11	5日、治安維持法違反容疑で特高により逮捕。翌年3月、市ヶ谷刑務所に収監。
1933	3	獄中で研究資料「しゃれた画学生ウイリアム・グロッパー」を構想。
	8	妻・梅子死亡。死亡するまでの3日間は拘留停止となり、妻と対面。
	9	保釈決定。12月に懲役2年、執行猶予五年的判決。 *読売新聞に復帰。翌34年より漫画を多数発表。
1935	4	稻垣小五郎、加藤悦郎、岩松淳、松山文雄らと研究会をつくり、彫刻、漫画、デッサンなどの研究をはじめる(~7月)。
	5	日本漫画研究会の顧問および講師として、岡本一平らとともに活動。
	3	『カリカチュア』(カリカチュア研究会)創刊、顧問となる。
	8	満洲をスケッチ旅行。
1936	12	柳瀬正夢油畫風景展、柳瀬正夢ポスター作品展開催。 *労働者対象の絵画サークルを自宅に開設。
		*ふたたび油彩画の制作に取り組み、多くの友人からの支援を受ける。
	5	ゲオルゲ・グロッサー作品及文献展示会を主催。
1937	6	『コドモノクニ』(東京社)に、童画挿絵を寄せはじめる。
		須山計一、松山文雄と中国東北地方をスケッチ旅行。
	11	満鉄北支事務局の招聘で天津、北京、大同、雲崗を訪問。
1938	12	柳瀬正夢画伯作北支風物紹介の絵画試作展(満鉄北支事務局階上会議室)開催。
	3	家族とともに中国を旅行。5月から華北交通の招聘で天津、北京に滞在し、各地をスケッチや写真撮影してまわる。
1939	4	柳瀬正夢北支風物油画展開催。その後、大阪、九州(福岡・小倉・門司)でも開催。
	12	『近きより』主催の第3回失明勇士に感謝する美術展覧会に出品。
	1	『九州文学』同人となる。
1941	8	『週刊朝日』連載の「支那幽默集」の挿絵を担当。翌年からは「大東亜異聞集」。
	2	三ツ峠をスケッチ旅行。「まさに凍つく峠くろき富士」という俳句を詠む。
1942	4	満鉄弘報課の招聘で満洲を訪問。白系ロシア人の入植地・ロマノフカ村などを訪れ、多くのスケッチや俳句をのこす(~5月)。
	3	自宅・アトリエ完成(東京三鷹市牟礼)。
1943	12	日本美術報国会第二部(油絵水彩)の正会員となる。 *柳瀬正夢句集三部作「雪山」「秋雜草」「冬の港」の刊行を企図。
	3	新京、奉天を訪問。奉天で北満スケッチ素描展を開催。
1945	5	久生十蘭の連載小説「をがむ」の挿絵を担当(『東京新聞』23~26日)。 25日、新宿西口広場で空襲に遭い死亡(享年45歳)。

to 1945



1931



1935



1938



1939



1941



柳瀬正夢全集

柳瀬正夢全集刊行委員会編

全4卷+別巻1

Yanase Masamu

2013年12月14日刊行開始 第1回発売 ▶第1巻 特別定価 15,000円(税別)

▶以降、半年ごとに刊行 2巻以降の定価各 18,000円(税別)

造本・体裁 A5判／上製／平均580頁／カラー口絵6頁

▶全集の特色

- ・美術史上でとりあげられなかった、印刷物として発表した著作を網羅
- ・発行年をもとにした発表形態別の編集により全貌が明らかに
- ・公的機関に入っていない稀少な資料も収録

第1巻 1916~1927年

大正アヴァンギャルド運動・漫画家としての出発点

—— 今の處僕には漫画という形式が一等恰好だ

『種蒔く人』『文芸戦線』の運動に参加した大正期の、漫画、詩、評論、雑誌表紙絵、単行本装幀を収録。ダダのゲオルゲ・グロッスの作風に多大な影響を受けた時期の作品。

▶ISBN978-4-906943-34-0 C3371

第2巻 1928~1933年

プロレタリア芸術運動の隆盛・大衆読者への意識

—— 俺達の絵筆を送れ!

『無産者新聞』掲載の反骨精神に溢れたアジプロ漫画や挿絵、プロレタリア作家の単行本装幀、『アサヒグラフ』連載のナンセンス漫画、『無産階級の画家 ゲオルゲ・グロッス』(編集)や『無産者グラフ』を収録。大衆社会の光と影を映し出した作品群の集成。

▶ISBN978-4-906943-35-7 C3371

第3巻 1920~24, 1929~36年

読売新聞の時代

1920~24年までの政治家の似顔絵や議会漫画、そして再入社直前の1929~36年までの漫画を収録。諷刺画はじめ、コミック漫画「金持ち教育」「パン太の冒險」、フォトコラージュを駆使した「真夜中から七時まで」(モーリス・ルブラン作)の挿絵など意欲的な作品の宝庫。

▶ISBN978-4-906943-36-4 C3371

第4巻 1934~1945年

戦時体制下の仕事

—— 現代の画家一般は全て漫画家でなくてはならない
満洲・中国旅行の紀行文・スケッチ、『子供之友』『コードモノクニ』などに掲載した童画、火野葦平の連載小説『みづうみ』や『週刊朝日』の挿絵、俳句や写真構成など、晩年までの作品を収録。

▶ISBN978-4-906943-37-1 C3371

+別巻 解説、同時代評、著作目録、年譜 ▶ISBN978-4-906943-38-8 C3371

〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町4 白亜荘

三人社

<http://3ninsha.blog.fc2.com>

TEL 075-762-0368 FAX 075-762-0369 E-mail yanase@3nin.jp

『柳瀬正夢 全集』 第 卷 or 全巻 を申し込みます。

お名前

ご住所

お電話番号

* 図書館様・書店様へ
小社は少部数出版のため取次口座はございません。
ご注文は直接上記までお申し込み下さい。